

研修テーマ





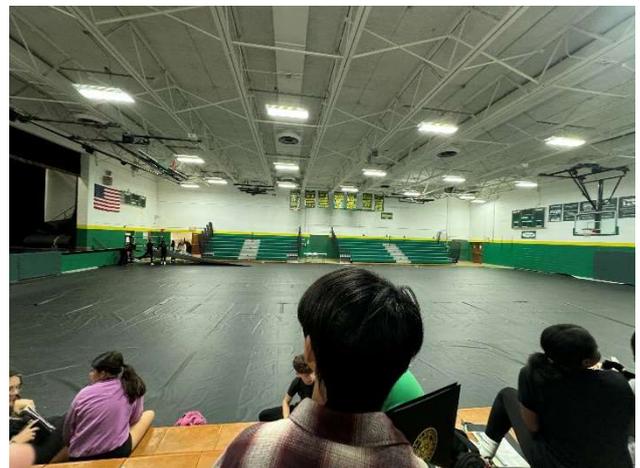
学校の構造の違いについて

室蘭西中学校 土山 大洋

今回のノックスビル市派遣事業では、「日本にはないアメリカの文化に触れたい」と思い、自分自身のテーマを考えて参加しました。私のテーマは、学校の構造の違いについて調べることです。私は小学3年生から6年生までの4年間を、母の祖国である東南アジアのミャンマーで過ごしました。地震の少ないミャンマーの建築物は、日本とは全く違い、レンガ作りの建物が多くあります。一方、アメリカは国土が広く、地域によって気候や文化に違いがあると思います、建築物、特に学校建築において、日本とどのような違いがあるのかを学びたいと考えていました。実際にシダーブラフ中学校に行ってみると、日本の中学校よりも部屋の数が多かったり、日本と照明器具の配列が違ったり、黒板授業ではなく大型スクリーンでの授業であったりと、他にも探せば探すほどたくさんの違いを発見することができました。その中でも僕が一番驚いたのは、床に置くエアコンです。最初は日本と同じストーブかと思いましたが、授業終わりに近くに行って手を当ててみると、とても冷たい風が出ていたので、そこで初めてエアコンだと言うことに気が付きました。様々な違いを見つける中で、日本の中学校にも採用してほしい物がありました。それは椅子と机が一体化した座席です。初めは、座るのに苦労しそうだと思ったのですが、いざ座ってみるととても座りやすく、座り心地も良く、掃除の時などに運ぶのが楽で、とても気に入りました。椅子と机が別々になっていると、体がぶつかるたびに位置がずれ、その際に出る音も大きいので、椅子と机を一体化することで、ずれたり音を出す回数が減ると思います。

ところで、アメリカの中学校のメインアリーナ、いわゆる体育館には、バスケットボール専用の「モニター型得点板」があることはご存知でしょうか。

私達がシダーブラフ中学校の生徒と交流する際に使用したメインアリーナには、とても大きな得点板が壁に設置されていました。シダーブラフ中学校の先生に「あれは何ですか?」と聞いてみると、バスケットボール専用の得点板であると教えていただきました。それはとても大きく、メインアリーナの色と統一されていて、大きいのにとてもスタイリッシュな見た目をしていました。バスケットボールをするのが楽しくなりそうだと感じました。実際に使用している所を見ることはできませんでしたが、仲良くなったシダーブラフ中学校の生徒に話を聞いてみると、試合終了の際ブザーが鳴ると言うこともわかりました。このように、短い期間の訪問だけでもたくさんの違いを見つけることができました。私は今回の派遣事業を機に、アメリカ以外の国の中学校とも比較をして、違いを見つけていきたいと考えています。



シダーブラフ中学校の体育館の様子



アメリカと日本の音楽の違い

室蘭西中学校 米田 ひとみ

私はアメリカ出身のアーティストが大好きです。なぜなら小さい頃から父と洋楽を聞くようになり、英語の曲に惹かれ大好きになったからです。そこで私は日本とアメリカの音楽の違いについて調べました。

初めに人に聞いて、認知度や流行にスポットを当てて調べてみました。日本ではアメリカ、韓国、中国を中心に多様な洋楽が有名です。しかし、アメリカでは主にアメリカ出身、拠点としている人が多いです。実際に聞いてみるともちろん好みは人それぞれで色々な回答がありましたが、やはり圧倒的にアメリカ出身のアーティストが多かったです。また、有名なアーティストは日本で知られている方ばかりで、「私も知ってる！！」と話がとても盛り上がったのを覚えています。

次に音楽を聞く手段の違いについてです。私のホームステイ先のお母さんがレコードプレーヤーを私に見せてくれた時に初めてレコードで音楽を聞くことができました。日本ではCDやスマートフォンが主流になってきましたが、アメリカではまだまだレコードも主流なのかなと感じました。レコードはCDなどとは違い、臨場感のあるサウンドでした。またお母さんとは共通の好きなアーティストがいてその人のレコードを流してもらい、二人で踊ったりもしました。他にも Warner と部屋で音楽を聞いたりもして本当に楽しかったです。

最後に吹奏楽の違いについて調べました。アメリカには「Brass band」という日本の吹奏楽のようなチームがあります。主に地域で活動しているようで、空港などで演奏会を開いて披露

しているそうです。また、使われる楽器も日本とは変わらなかったです。しかし、バイオリンを使っているチームもありました。実際に学校に訪問に行った時に演奏を聞かせてもらいましたが、とても上手で感動するほどでした。みんな黒いTシャツに黒いジーンズを履いて演奏していました。

今回このような経験や研修テーマについて調べられたのも派遣に関わってくださった多くの方々のおかげで貴重な経験をすることができました。普段生活する中で得ることのできない感動や経験は決して自分だけではできないことです。そして派遣事業の歴史を繋げることができたのも私達だけでなく、多くの大人に助けていただきながら成し遂げたことだと思います。これまで支えてくれた家族、ホストファミリー、市役所の皆さん、引率してくださった先生方、ノックスビルの方々、私達を支えてくれた全ての方々、本当にありがとうございました。



派遣生徒とホストチュードントと（左から二番目が筆者）



日本のアニメの認知度について

翔陽中学校 音無 彩月

私の研修テーマは「日本のアニメの認知度」です。アメリカでは年々日本のアニメ作品が有名になっています。アメリカだけでなく世界中から愛されています。さて、世界中、主にアメリカではどのような作品が流行していくのでしょうか？研修テーマはホストファミリーやシダーブラフ中学校の生徒に聞くことを元に調査を進めました。

スーパーや大手ショッピングモールには日本のアニメ作品のグッズや衣装など、他にもたくさんの物が発売されていました。実際に私も現地でカプセルトイを回してみました。そのカプセルトイは5ドル(約725円)で回すことができました。アメリカでも日本のカプセルトイを回すことができるのはとても新鮮でした。

次にアメリカで流行した作品についてです。現地では日本の色々な作品が近年有名になっています。例えば、「ONEPIECE」や「NARUTO」、「鬼滅の刃」などです。シダーブラフ中学校の生徒の方々にアンケートを取ると、特に有名だったのは「ONEPIECE」でした。

他にも、現地で2021年に公開された「鬼滅の刃 無限列車編」では、公開初週末に2100万ドル(約22億円)を記録するなど、素晴らしい記録を残しています。この結果を通して、色々な作品、ジャンルの中でも特に人気なのは「少年漫画」だということが分かりました。

日本のアニメ作品が世界中で人気の理由は2つあると思います。

1つ目は魅力的なストーリー性です。アニメに関わらず、物語には色々なジャンルが存在し

ます。例えば、学園物語やギャグ漫画、ファンタジーな物語やスポーツ漫画など、他にも無数に存在します。物語の一つ一つに未だに見たことがない、新しい結末が待っているというところに世界中の読者は惹かれます。そのようなところが作品の魅力だと私は思います。

2つ目はアニメ制作の様々な進化です。海外から日本にアニメ作品が輸入されたのは1930年代と言われています。そこから様々な進化を遂げて今に至ります。ダイナミックに描かれた作品もあれば、細かく繊細に描かれた作品もあります。作画の向上もそうですが、他にもたくさんの工夫を施して現在世界中から愛されている作品が出来ていると思います。

この研修を通して、改めて日本のアニメ作品の素晴らしさを実感しました。これからも世界中にたくさんの作品が広まって欲しいなと思います。



アメリカで日本のアニメ作品が販売されている様子



アメリカの物価について

東明中学校 熊谷 瞭那

私の研修テーマは、アメリカの物価です。この頃1ドルは約150円で、ニュースで「円安」という言葉を知り、海外の物価に興味を持ちました。実際に見た商品、買った商品などの値段を紹介し

まず、飲み物は約1～3ドルでホテルの水は一本3ドルもしました。日本円にして約450円！アメリカに着いて初の買い物がこれだったのでびっくりしました。次にお菓子類は、約1～10ドルでした。スーパーマーケットで買ったグミは1ドルほどでしたが、お土産用のは10ドル近くしました。ポッキーも売っていて、これは3ドルでした。お菓子は種類がたくさんあって、見るだけでもとても楽しかったです。ペンは、お菓子と同じく種類が豊富で、蛍光ペンは1ドル、飾り付きのペンは2ドル、ライト付きのペンは3ドルでした。ペンは日本のものと大差はないのかもしれませんが、でもアメリカのペンはデザインが面白くてこれはお土産におすすめです。次にキーホルダーは約10～15ドルでした。私が買ったのはワシントンの自由行動の時のお店と、ノックスビルの空港のもので、最初はすごく高く感じました。私は合計6個のキーホルダーを買ったのですが、金額は70ドルでした。大型のスーパーマーケットには5個でワンセットのキーホルダーもありました。これは12ドルで、これもまたお土産におすすめです。最後に帽子です。帽子は約10ドル～40ドルほどでした。私は25ドルの帽子を買いました。40ドルの帽子は日本円で6000円なので、高いとも思いましたが、アメリカの帽子でせっかくなので思い出や記念に買っていくと良いと思います。

これはほとんど空港や大型スーパーなどで買ったものですが、地域の小さな

店では1ドルの物がたくさん並べてありました。この店はおそらく日本で言う百貨店だったのだと思います。私はこのような店があるとは思っていなかったのでも驚きました。

こうしてみるとアメリカの物価は高いことがわかりました。これは円安の影響もあると思います。でもお菓子などは内容量も多く、1ドルで買えるものも少なくないため、「高すぎる！」というわけではないと思います。

今回、この研修テーマを調べるために、小さなスーパーから大型スーパーまで、色々な場所に連れて行ってもらいました。物価を調べる他にもとても貴重な体験ができたし、何よりすごく楽しい思い出をたくさん作ることができました。この事業を支えてくれた皆さんに感謝します。本当にありがとうございました。



ハロウィンの日にホストファミリーと（本人は左）



学校生活の違いについて

桜蘭中学校 小美浪 颯士

私は、日本とアメリカの学校生活の違いについて調べました。

1つ目に、授業の仕組みの違いについてです。アメリカの中学校では一人一人の時間割が違って自分の進度・理解度によって授業をとることができる仕組みでした。私のホストステューデントである Jonathan は、高校レベルの数学を学んでいました。この仕組みについて Jonathan は「毎回の授業でメンバーが変わるからいろいろな友達ができる」と言っていました。私は、この仕組みはコミュニケーションを多く取れるし、自分の得意な分野をより伸ばすことができるのでとても良い仕組みだと思います。

2つ目に、昼食の違いについてです。アメリカの中学校での昼食は、全員で同じ給食を食べる日本とは異なり、それぞれ違うものを食べていました。家から弁当を持ってくる人もいたり食堂で買う人もいたりしました。食堂のメニューにも多く種類があり、自分の好きなものを取って仲の良い友達と集まって食べることができます。そして、早く食べ終わった人は、テレビゲームをして遊ぶことができることには、とても驚きました。自分で食べるものを選ぶシステムは、多くの民族が暮らすアメリカには合っているように感じました。

3つ目に、部活の違いについてです。私が訪問したシダーブラフ中学校には、20~30 程の部活があり、複数の部活に所属可能でした。Jonathan は、野球部、チェスクラブ、year book クラブに所属していました。year book クラブは、一年の出来事を本にまとめるクラブで、シダーブラフ中学校で1番の人気があるそうです。私の中学校では、1つの部活を3年間続けるのが一般的になっていますが、アメリカでは興味のある部活に複数

所属するところが大きく違っていました。

アメリカの学校生活について調べてみて、時間割や昼食の取り方の違いなどからアメリカは「個々で」日本は「全員で」が多いように感じました。しかし、アメリカ人だから全員でまとまらない、協調性がないという訳ではなく、私達がシダーブラフ中学校を訪問した際には、とても盛り上がってくれたり、歓迎パフォーマンスを披露してくれたりしました。学校では「個々」での活動が多いのに、どうやって協調性を身につけるのか、新たな疑問が生まれ、よりアメリカを詳しく知りたくなりました。今回の派遣で数え切れないほどの貴重な経験ができました。



Jonathan と(左が筆者)



日本とアメリカの町並みの違い

桜蘭中学校 中田 莉央

私は、日本とアメリカの町並みの違いについて調べました。日本とアメリカではいくつか異なっていることがあったので紹介します。

まずは信号機です。アメリカでは歩道が自立タイプ、車道が吊り下げタイプでした。日本でよく見られる音がついた歩道の信号機は見られませんでした。私はアメリカは何車線もあり車道の幅が広いので、日本のような自立タイプにすると柱が邪魔で道の中心まで信号が届かなくなってしまふから信号機を吊り下げているのではないかと感じました。

次に道路です。私が驚いたのは車線がたくさんあることです。都心部に近づくにつれ5,6車線ほどもよく見かけました。それはアメリカの特徴である土地の広さを利用していると思いました。

次に建物です。建物の高さが日本よりも高く、日本は木製なのに比べ、アメリカはほとんどがレンガで作られていました。そのため日本の町よりもレトロな雰囲気を感じられました。

最後に私が一番驚いた交通ルールです。まずアメリカではフリーウェイと呼ばれる高速道路に無料でのることが出来ます。無料なので誰でも気軽に使いやすく、実際に私のホストファミリーも利用していました。もう一つは赤信号での右折です。日本の場合、赤信号で止まらなければなりませんアメリカでは信号の矢印マークなどもないけれど右折が認められています。このルールは後々調べるとガソリンの節約のために導入されたものらしいです。これは日本は左側通行ですがアメリカは右側通行なのでこのようなルールが使えるのだと思いました。このルールはとても便利なですが、アメリカの事故のうちの16%がこのルールによるものらしいので、日本では左側通行だ

ということもあり導入は難しいと思いました。

このように日本とは街の雰囲気から細かなところまで異なっていて、特に交通ルールは赤信号での右折などから日本とアメリカの文化の違いや暮らしの違いが表れていると思いました。

今回の研修テーマを調べる上で、実際にアメリカへ行き、そこで暮らしたり体験しないと気づけないことがたくさんありました。このような素晴らしい体験をさせてくださった家族や室蘭市、ノックスビルの方々、この派遣に関わってくれた皆さん、本当にありがとうございました。



ハロウィンの日にホストファミリーと（写真中央が筆者）



アメリカと日本の学校の違い

桜蘭中学校 本藤 慎之典

まず、教室での様子についてが印象に残りました。ホストスチューデントに「どこに座る？」と聞かれて日本のように席が決まっていないことを知りました。そして、授業ごとに教室も毎回移動していました。日本でも教室を変えることはありますが、基本は自分の教室で受けています。席の配置も教室ごとに違っていて班の形に席が並べられている教室や前に向けて並べられている教室がありました。教室を授業ごとに毎回変えるのは、その授業の内容に合わせた席で授業をするためなのではないかと思いました。班の状態で机が並べられた教室での授業は協力して行う作業が多いように感じられました。また、教室には黒板の代わりにホワイトボードが大量にあり、課題に関するメモがたくさん書いてあったことが印象に残っています。

次に、授業についても印象に残りました。最初に授業について気がついたことは、ホワイトボードは使わずにテレビを使って授業を進めていたということです。自分の学校でも授業でテレビを使っていますが、アメリカでは課題をテレビに表示したり、数学の問題の解き方の説明をテレビに表示してタッチペンのようなもので書き込みながら説明していたことが印象に残りました。さらに、ホストスチューデントに見せてもらった教科書がまるで図鑑のように大きくて分厚かったことも印象に残りました。そして、教科書の問題を解くための冊子があったことにも驚きました。さらに、サブの教科は自分で選んで授業を受けられることもホストスチューデントに教えてもらいびっくりしました。また、違うところだけでなく同じところもありました。アメリカでも一人に一台ノートパソコンが配られていてそれを授業や家庭学習に活用し

ていたのでそこは日本と同じだと感じました。そして、授業の進め方も同じだと感じました。見学した理科の授業では、最初に先生から課題が与えられてそれをパソコンで調べながら協力して課題を進めていくことをしていたし、数学の授業では先生と解き方を確認しながら問題を解いていました。日本で自分が受けている授業とは違うところもあるけれど、過去に似たような授業を経験したことがあったので同じだと感じました。また、英語の授業では与えられた文章を読んでそれについての感想文を書くという課題が出されていて、作成する文章の構成の参考にするためのプリントも配られていると教えてもらいました。英語の授業は日本の国語とは少し違うと感じました。今回の派遣事業で色々調べるうちに、違うところだけではなく同じところもたくさんあることがわかりました。



授業が始まる前の教室の様子



アメリカと日本の野球の違いについて

港北中学校 馬場 一輝

僕の研修テーマはアメリカと日本の野球の違いについてです。テーマ調査方法は

- ・ テレビを見て比較する
- ・ ホームステイ先の人と野球の話をするの2つです。

その中でまず日本とアメリカの球速について調べることになりました。日本では2021年の平均球速が145.5km。アメリカでは150.6km。数字だけ見れば約5kmと少なく見えますが、球速が5キロも変わるということはとても大きいことです。日本では150kmでれば速球派として扱われますがアメリカにはそれぐらい出る投手がたくさんいます。そして160km以上の速球が出る投手も珍しくないです。このようなことからアメリカと日本で肩の力が全然違い、そして全体を見て言えることはとにかくスピードが段違いということです。

なぜこれほどまでに違いが出るのかというと、やはり食べ物によって変わると思います。僕がアメリカで過ごしていた日々で日本と大きく違ったのは一日の食べる食材でした。日本では基本的に栄養重視で食べますが、アメリカではシリアルを毎日食べます、これだけ聞けばシリアルのほうが少なく聞こえますが、アメリカの人は食べる量も多くまたシリアルも甘くカロリーのも高いためこれほどに違いが出るのだと思います。このようなことから元々の体格からして大きく、異なることから日本とアメリカの球速の違いがあり、日本がアメリカについていくのは非常に厳しいんだと思いました。ホームステイ先で野球のテレビ鑑賞をして気づいたことがありました。

日本ではスモールベースボールといってバントなどをして走者を先の塁に進め

て1点ずつ取っていく戦術がありますがアメリカではあまりしないということがわかりました。

少し話は変わりますがシダーブラフ中学校で交流をした際にみんなが大谷翔平が好きだという人が多かったです。ホームステイ先ではアメリカでは定番のスポーツショップにつれていってもらおうと大谷翔平選手が使用しているスポーツメーカーの器具が多く並べられていました。ホストチューデントも好きな野球選手は大谷翔平選手とっており本当に有名なんだなと実感しました。このように様々なことからアメリカと日本の野球の違いについて調べることができました。

これからも同じ野球をするものとしてアメリカと日本の違いについて学び、自分の成長につなげていけるようにしていきたいと思います。



ホームステイ先で見たプロ野球の中継



日本とアメリカのサイズの違いについて

本室蘭中学校 飯田 樹汰

僕の研修テーマは、日本とアメリカのサイズの違いです。その為に日本からメジャーを持参しアメリカへ行きました。

最初は、ビックマックです。名前にすでにビックとついているので 自信を持って大きいとアピールしている商品だから楽しみでした。

まず日本のサイズは直径約11cm 高さ約8cm 何と、アメリカのサイズは 直径10cm 高さ8cmでした。これは想像とははるかに違い「こんなことがあるのか」と思いました。

次はスターバックスです。日本で1番大きいカップのサイズはベンティ 590mlでした。では、アメリカはどうでしょうか?ベンティを注文しサイズを測ってみたところ、こちらは日本と同じサイズでした。ところが、あとから調べたところ、アメリカのスタバにはベンティよりも大きなトレンタというサイズがあったようです。トレンタは約917mlらしくベンティより327mlも多くて驚きました。そしてせっかく行ったのに買うことができなかつた事が残念ですが、同時にはたして僕に飲みきる事ができたのか、とも思いました。

衣類では、Tシャツの大きさをくらべてみました Tシャツはホストファミリーが買い物に連れて行ってくれた時に買っていたいただいたMサイズの物と日本のユニクロの物を比かくして見ました。日本のTシャツのMは肩幅45cm身丈68cmで、アメリカのMは平置きで肩幅47cm身丈72cmと日本のLサイズくらいの大きさなのでアメリカンサイズだと思います。サイズは日本に帰ってきてから測ったのですがこのTシャツを見ると、言葉を上手に伝えられない僕も家族のように接してくれたホストファミリーの暖かさを 思い出し目頭が熱くな

り、改めて感謝の気持ちで一杯になりました。

最後はベッドのサイズについてです。「イヤッホーイ」と言いながら飛び込みたい様なサイズ感で、寝相の悪い僕も上下左右に転がっても落ちない想像以上のアメリカンサイズでした。こちらはアメリカのキングサイズで大きさはなんと193cm×203cmもあったのです。日本のシングルサイズのおよそ2.5倍もありました。

アメリカではベットメイクをきちんとしなくては いけない習慣があり、ホストファミリーに 教えてもらいながらやりましたが日本の軽く整えるものとは違いシーツや掛け布団をベッドの下に入れたり枕も柔らかい物と硬い物の2種類あったりとベッドも大きかったので大変でした。

最後に僕はこの派遣で沢山のことを学びました。この経験は僕の一生の宝物です。この機会をくださった室蘭市の方々、僕たちを歓迎してくれたノックスビルの方々、助け合った仲間達、本当にありがとうございます。



ハロウィンの日にホストファミリーや友人と
(本人は後列の一番右)

